

【 会員投稿 】 **フクシマ原発 やじ馬かわら版 (第2話)**

岡島 清二

◇ 「喉元過ぎれば……」 原発情勢俯瞰 3.11から1年3ヵ月、「政府・東電・民間・国会」各事故調報告がほぼ出揃う。その中身も然ることながら、即世論に呼応し「脱原発依存」「浜岡停止」「40年廃炉」の前菅政権指針をよそに、「大飯再稼働」に奏功の関電八木誠社長が、拙速「40年廃炉の根拠を示せ」と次なるカードをチラつかせた。故**高木仁三郎は遺著「原発事故はなぜくりかえすのか」**(岩波新書)で、JCO臨界事故後、科技厅と文部省を統合し責任をうやむやに、然る後の再推進を危惧、フクシマ級大惨事を予言して見事的中した。一度開けたパンドラの箱は閉められない。原発はマフィアで薬物神話が存続すると言う。「大山鳴動鼠一匹」今回もその繰り返しなのか…。世界のメディア特に旧三国同盟、敗戦国ドイツとイタリアは脱原発を宣言、**原爆と原発**の随一被災国で、原発輸出を掲げる不可解な国と日本を揶揄している。航海図なき日本丸、真実を報じないマスコミ、やじ馬の原発裏読み5選と参考書を紹介します。会員各位の原発知見に少しでも役立てば幸甚です。

① 世界の原発立地と地震・津波の関係

右図は「**原発を終わらせる**」石橋克彦編(岩波新書)の盗撮で、たかだか直近21年間の発生地震(M4以上)174,581回の震源地を●点で示した。多発地が見事な程に黒帯状になっている。一方、全世界で550基(内廃炉100)の原発立地を○で示してある。原発大国フランスと米国の○域には震源●なく内陸にある。日本○域は領海含め、地球表面積0.3%のところ、震源が10%、原発13%が立地、全て海岸沿である。地球活断層域と地震列島日本、地球活動隆盛期等、普遍的現実と状況が、原発推進の無謀さ更には東南アジア諸国への原発輸出が、如何に狂気沙汰か自明の理である。

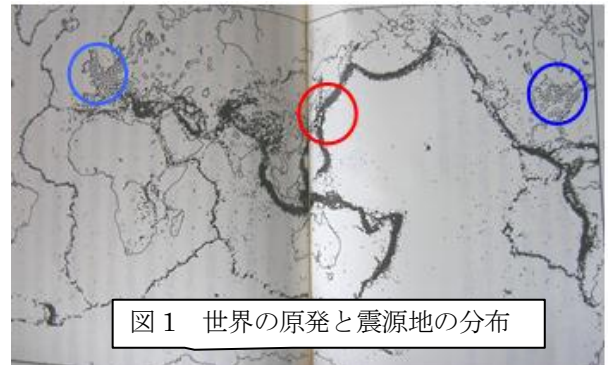


図1 世界の原発と震源地の分布

② フクシマ原発最悪シナリオの真実

レベル7は史上最大災害であるが寧ろよくぞここで停まった。奇跡なりが実感である。1つの炉が爆発すれば、線量が高く他の炉に近寄れず6基共連鎖爆発、終には福島第2も放棄…**民間事故調報告書の巻末に近藤俊介原子力委員長作成、「最悪シナリオ」**が掲載されている。そこには水素や水蒸気爆発は何とか抑制できるが、最も制御困難で線量膨大となって、首都圏・東日本壊滅となる最悪シナリオは、4号炉の使用済燃料プールがメルトダウして、**MFCI**(コンクリート相互作用)が発生したときとある。即ち原発の**稼働・停止**に関係なく最大リスクが潜在するということである。因みに使用済燃料貯蔵が多いのは、柏崎刈羽が1番でフクシマ2番、以下福島第2、浜岡、大飯と続く。(11.6.26 朝日新聞)

③ 原子炉40年寿命の根拠

軽水炉の設計寿命は30年、中性子が炉材に照射すると脆性化(コップに湯を注いで割れる現象)する。銅不純物が原因と解ったが(1969年)、70年代は未対策である。脆性遷移温度が0℃以下から、年々上昇し93℃が限界基準である。炉中に入れた試験片を採り出し実測するが、40年は想定外で試験片が無くなるし基準も超える。電力は基準を上げる等延命策に懸命なり。経年劣化×地震=大惨事…**「原発のどこが危険か」桜井淳著**(朝日新聞社選書)

④ 我が国原発技術は世界トップクラスという虚構

ヘリコプターによる散水や汚染漏水を入浴剤とオガクズで止めようとした現実に白けてしまったが、いつからか大学に原子力学科がない。学生が集まらないのだ。「もんじゅ」の完成は勿論、原発の将来は赤信号なのである。一方、現場は溶接工がいない、育たない。にわか教育で対応しても線量の高い現場では精度ある仕事ができない。被曝量によりベテランも残れない。フクシマで37年間に144回事故が起きていた。机上技術はトップクラスでも、現場の品質は劣悪なのである。「**原発・放射能クライシス**」(リーダーズノート編集部) / 「**平井憲夫**」でウェブ検索方

⑤ 原発は地球にやさしいとの欺瞞

原発の発電効率は約30%である。70%はムダ(熱)となって海に捨てられている。CO2を出さないから地球にやさしい?同様なことを考えている学者がいた。「**小出裕章が答える原発と放射能**」(河出書房新社)によれば、100万Kwの原発で毎秒7℃上昇した海水が70トン放出されているとのこと。これ地球温暖化に直接影響しているのでは、CO2換算したら…或いは使用済燃料を地下深く何万年も埋めようとして、いまだその場所が決まらず仮置きしていることが、地球にやさしいとはどうしても考えられない。放射能よりCO2の方が将来的にも扱いが何かとよいはずだが…

◇ やじ馬のいななき (結び)

フクシマは吉田所長他により、最悪シナリオから脱出できたこと、誰もが認める事実である。何故所長は決死の覚悟ができたのだろうか、会社トップの会見姿や雲隠れを知って、当初そんな気には到底成れなかったはずである。(真実は定年後しばらくしないと本人から聞けないだろうが…) 初対面とはいえ大学の先輩であり、一国の総理大臣から危険な現場にまで来て、「命を賭して…(あとのことは心配するな)」と暗に懇願され、苦渋の末に決心したのは…因って、やじ馬の目には、菅前総理の行動が奇跡を呼び、日本を救ったといって過言はないと考える。このような極限行動は、汗をかかず手を汚さず、意気に感ずることができない、後知恵に長ける人々には、永遠に理解できないはずである。(…第2話了 2012.6.28)

会員投稿のご協力有難うございます。現在の未掲載原稿は、三件です。引き続きよろしくお願います。